

令和5年産

気仙沼・南三陸 稲作情報 第6号

令和5年7月12日発行

宮城県米づくり推進気仙沼地方本部・宮城県気仙沼農業改良普及センター

TEL 0226-25-8069 FAX 0226-22-1606

今後の管理のポイント

- ・ 平年と比較して出穂が早まる見込みです。適期の追肥、病害虫防除をしましょう。
- ・ 斑点米カメムシ類の水田への侵入を防ぐため、周辺の草刈りは7月20日頃（出穂10日前）までに終わらしましょう。

1 気象の概況

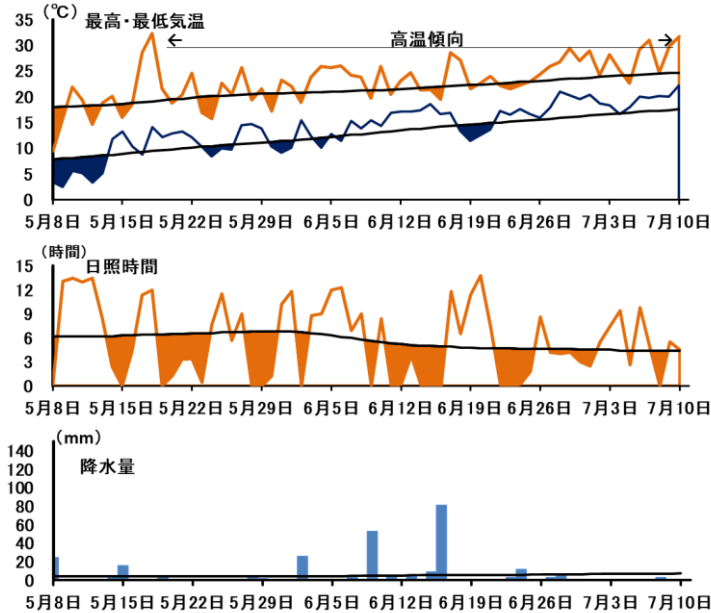


表1 気象経過（気仙沼アメダス）

	平均気温(°C)		日照時間(h)		降水量(mm)	
	本年値	平年差	本年値	平年比	本年値	平年比
6月 上旬	18.6	2.3	78.2	120%	82.0	208%
6月 中旬	19.1	1.5	47.5	97%	101.0	183%
6月 下旬	20.7	1.9	33.6	74%	24.0	41%
7月 上旬	23.1	2.9	75.6	172%	4.5	7%

【6月の気象】

期間をとおして高温で推移しました。上中旬は大雨があったため降水量は平年より多く、日照は上旬が平年を上回ったものの、下旬は平年より少なくなっています。

【7月の気象】

上旬は引き続き高温傾向で推移しており、かなりの多照・少雨となっています。

図1 気象経過図（気仙沼アメダス：5月8日～7月10日）

2 水稲生育調査ほの生育概況

表2 水稲生育調査結果（7月10日現在）

品 種 地区名		田植日	栽植密度 (株/m ²)	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉色値 (GM)	幼穂長 (mm)
ひとめぼれ 気仙沼市 (本吉町)	本 年	5/14	20.3	56.4	655.7	35.1	4.1
	前年比・差	+3	98%	93%	111%	+2.5	-1.4
	平年比・差	±0	101%	98%	109%	-1.5	+2.2
ひとめぼれ 南三陸町 (志津川)	本 年	5/11	18.0	65.0	502.2	37.1	5.5
	前年比・差	-2	94%	100%	101%	+3.8	-0.3
	平年比・差	-2	99%	109%	103%	±0.0	+3.3

注) 平年値は平成30年から令和4年までの5か年の平均値

- ・ 管内の生育調査ほの生育は、草丈及びm²当たり茎数が平年並から上回っています。葉色値が平年並～やや淡くなっています。
- ・ 幼穂の形成は平年より早く、生育が早いほ場では7月2～3日頃に幼穂形成期を迎えたと考えられます。中干しを終了して湛水（間断かん水）を開始するとともに、葉色が淡いほ場※は追肥を行いましょう。

※幼穂形成期頃の葉色値の目安は38～40、減数分裂期（7月下旬ころ）は35～37です。

3 出穂予想

- 管内生育調査ほにおける平年の出穂期は8月4日ですが、本年度の幼穂形成状況から、生育が早いほ場では7月27～28日頃に出穂期を迎えると予想されます。ただし、今後の天候により、生育ステージが予測値から変動することもあります。ほ場で幼穂長を確認し、生育ステージを把握することが重要です（表3）。

表3 幼穂の長さとお穂までの日数の目安

生育ステージ	時期 本吉「ひとめぼれ」 本年値（平年値）	出穂前 日数	幼穂長 (mm)	葉耳間長 (cm)
幼穂形成始期	<u>7月3日</u> （7月10日）	25日	1～2	-
減数分裂期	始期 <u>7月中下旬</u> （7月20日）	15日	30～40	-10
	盛期 -	12日	80～100	±0

注）葉耳間長：止葉の葉耳とその下の葉の葉耳との間隔によって、出穂前日数を予想することができます。

4 今後の管理の留意点

細線／通常の水管理

太線／低温時は深水管理

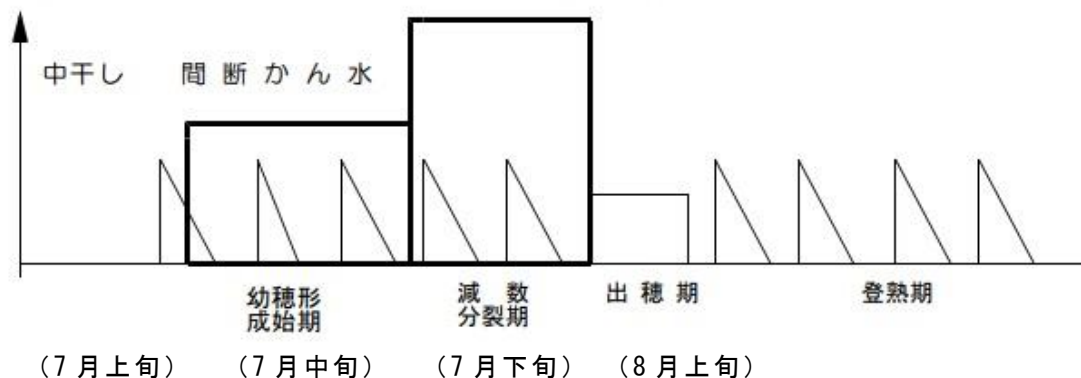


図2 幼穂形成期以降の水田水管理体系（宮城の稲作指導指針（基本編））

【中干し後の水管理】

- 生育の早いほ場では幼穂形成期を迎えていると考えられるため、中干しは終了しましょう。中干し終了後は急激に湛水状態とすると根を傷めますので、最初は走り水とし、その後間断かん水としましょう。
- 根腐れが発生しやすいほ場では、飽水管理（田面の足跡に水がなくなったら水を入れ、土が十分に湿ったら排水する）を行うと、根の健全化と茎の充実に効果があります。

【追肥】

- 登熟期の光合成能力向上、出穂後の高温による白未熟粒の発生の軽減、玄米品質・食味の向上のため、ほ場ごとに葉色や生育ステージ（幼穂長）を確認して追肥を実施しましょう（表3、4、5）。

表4 品質を維持するための目標生育推移（ひとめぼれ）

	6月20日	7月1日	7月10日	7月20日
草丈・稈長(cm)	32～34	45～48	56～59	66～69
茎数・穂数(本/㎡)	310～360	460～520	470～530	450～500
葉緑素計値	41～44	40～42	38～40	35～37

表5 各品種における追肥の時期と量の目安

品種名	追肥時期別及び施肥量（窒素成分量）	
	幼穂形成始期（出穂 25～20 日前） （幼穂長 1～2mm）	減数分裂期（出穂 15～10 日前） （幼穂長 3～12cm）
ひとめぼれ	1.0kg/10a	1.0kg/10a
まなむすめ	2.0kg/10a	-
ササニシキ	-	1.0～1.5kg/10a
みやこがねもち	-	1.0kg/10a

【病害虫防除】

（1）いもち病

①葉いもち

- ・7月10日発行の発生予報第6号「水稲」によると、**葉いもちの発生は「やや多」の予報となっています。**
- ・箱施用剤や水面施用剤（粒剤、パック剤）で予防している場合も、その効果が低下し始める時期です。これまで高温・多照で推移してきましたが、今後、追肥を行うことにより、**いもち病に感染しやすくなる**と考えられます。
- ・ほ場を入念に見回り、発生を確認した場合は、茎葉散布剤（粉剤等）で直ちに防除してください。
- ・最新の葉いもち感染好適条件の出現状況は、県病害虫防除所ホームページで確認できます。（<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/blastam.html>）

②穂いもち

- ・予防効果のある水面施用剤（粒剤、パック剤）は、出穂 10 日程度前までに使用するのが効果的です。出穂期の予測に基づいて、遅くなりすぎないように適期に散布しましょう。

（2）紋枯病

- ・出穂期前からの発病は被害が大きくなるので、注意してください。
- ・茎葉散布剤による散布適期は、穂ばらみ期から穂揃期です。要防除水準（減収率 5%、被害発生確率 50%の場合）は、穂ばらみ期の発病株率が「ひとめぼれ」で 18%となっていますので、要防除水準に達した場合は、防除を行ってください。
- ・前年に発生が多かったほ場では、多発のおそれがあるので、防除を実施してください。
- ・株元に薬剤がよく付着するように十分な薬量で散布してください。

（3）稲こうじ病

- ・前年に多発したほ場では注意が必要です。銅剤は予防効果が高く効果的なので、適期（出穂 20～10 日前）に防除を実施しましょう。

（4）斑点米カメムシ類

- ・斑点米カメムシ類の水田内への侵入を防ぐため、水田周辺の草刈りを出穂 10 日前までに実施しましょう（図3）。

○防除のポイント

①水田周辺の草刈り（7月中旬から出穂 10 日前：概ね 7 月 20 日頃まで）

- ・水田周辺にある牧草地や雑草地では、斑点米カメムシ類の密度を抑制するため、アカスジカスミカメの幼虫が主体となる7月中旬に草刈りを行ってください（図3）。
- ・水田畦畔の草刈りは、水稲の出穂前後に行うと水田内にカメムシ類を追い込むことになるため、水稲が出穂する 10 日前までに終わってください。

②薬剤防除

- ・薬剤防除は、穂揃期とその7～10日後の2回防除が基本です。
- ・イヌホタルイ、ノビエ等が発生した水田で除草ができなかった場合は、1回目の薬剤散布時期を「出穂始から穂揃期」に早めることで、アカスジカスミカメの密度を低下させ被害を軽減できます。

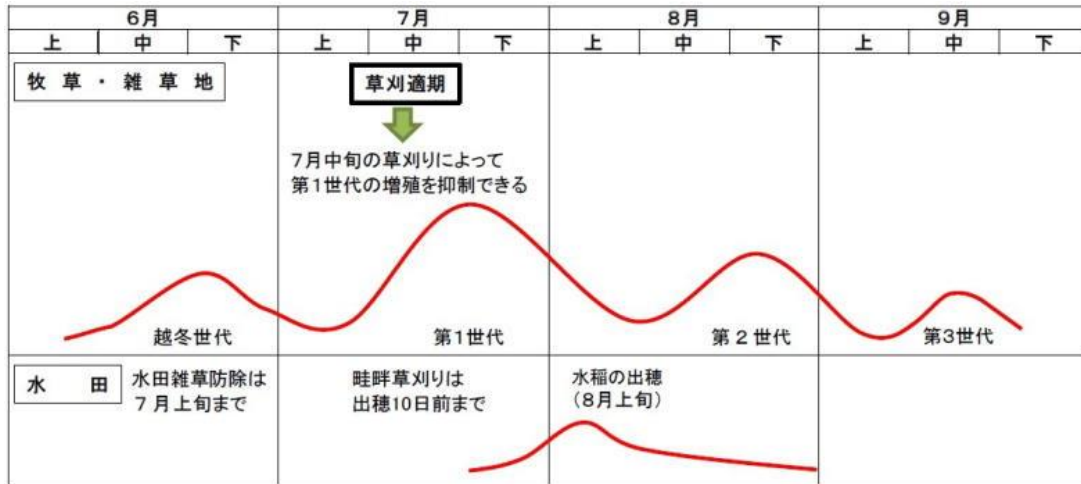


図3 アカスジカスミカメの平年の発生消長と草刈り適期

○だて正夢の栽培管理

表6 だて正夢普及展示ほの生育調査結果(7月10日現在)

品 種 地区名		田植日	栽植密度 (株/㎡)	草丈 (cm)	莖数 (本/㎡)	葉色値 (GM)
だて正夢	本 年	5/7	19.9	60.6	481.6	30.5
気仙沼市 (本吉町)	前年比・差	-4	95%	94%	101%	+1.1
	平年比・差	-7	99%	105%	103%	-2.8

注) 平年値は平成30年から令和4年までの5か年の平均値

・7月10日現在の幼穂長は2.7mmであり、7/7頃に幼穂形成期に達したと考えられます。

→平年(7月13日)と比較して6日早く、生育ステージが進んでいます。

今後の追肥、防除日程もあわせて前倒しし、適期に実施しましょう。

【追肥】

・基本の追肥は、減数分裂期に窒素成分で2kg/10aとなっていますが、葉色が幼穂形成期頃の目標値(40~42)を大きく下回っているため、入水後に窒素成分で1kg/10a程度追肥を行い、減数分裂期も経過を観察して窒素成分1~1.5kg/10aの追肥を行いましょう。

表7 「だて正夢」の生育量の目安(「だて正夢」栽培の手引きより)

項目		幼穂形成期	減数分裂期	出穂期
		7月15日頃	7月25日頃	8月10日頃
草丈	(cm)	64~70	76~82	-
莖数・穂数	(本/㎡)	390~460	380~420	350~400
葉色	(SPAD値)	40~42	37~39	35~37
主莖葉数	(枚)	10.0~10.8	11.4~12.2	12.5~13.0

○金のいぶきの栽培管理

表 8 金のいぶき普及展示ほの生育調査結果（7月10日現在）

品 種 地区名		田植日	栽植密度 (株/㎡)	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉色値 (GM)
金のいぶき	本 年	5/20	19.7	58.7	681.6	36.0
気仙沼市	前年比・差	+9	102%	86%	117%	+4.2
(本吉町)	平年比・差	+9	102%	95%	120%	+6.0

注) 平年値は令和3年から令和4年までの2か年の平均値

- ・幼穂形成期の葉色の目安：33～35 に対し、「金のいぶき」の目標収量（表 9）を達成するため、生育量の目安（表 10）を参考にした管理を行いましょよう。
- ・7月10日現在の幼穂長は 2.4mm であり、7月7日頃に幼穂形成期に達したと考えられます。
- ・「金のいぶき」は、穂いもち病に弱い品種なので、普及に移す技術「「金のいぶき」のいもち病防除体系 追補（第 93 号参考資料）」等を参照し、育苗箱施用剤を使用している場合でも、水面施用剤（パック剤・粒剤）や茎葉散布剤の体系処理を検討してください。

表 9 金のいぶきの収量構成要素の目安（宮城県「普及に移す技術」第 95 号）

精玄米重	㎡当たり穂数	一穂粒数	㎡当たり粒数	登熟歩合	玄米千粒重
510～540kg/10a	460～510本/㎡	60～68粒	30～33千粒/㎡	70～75%	22.4～23.0g

注) 篩目1.85mm

表 10 金のいぶきの生育量の目安（宮城県「普及に移す技術」第 95 号）

項目	幼穂形成期	減数分裂期	出穂期
	7月15日頃	7月25日頃	8月10日頃
草丈 (cm)	65～70	83～88	
茎数・穂数 (本/㎡)	570～620	490～540	460～510
葉色 (SPAD値)	33～35	30～32	31～33
主茎葉数 (葉)	11.0～11.4	12.0～12.4	12.9～13.3

○直は栽培の管理

表 11 水稲直は栽培普及展示ほの生育調査結果（7月10日現在）

品 種 地区名		播種日	苗立率 (%)	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉色値 (GM)
ひとめぼれ	本 年	3/15	36.4%	45.9	233.1	34.3
気仙沼市	前年比・差	-	-	87%	47%	-4.0
(本吉町)	平年比・差	-	-	103%	41%	-3.7

注 1) 播種方式はグレーンドリルによる乾田直は（条播）

注 2) 草丈以降の平年値は平成 30 年から令和 4 年までの湛水直は 5 か年の平均値（参考）

- ・ 7月10日現在、幼穂形成は未確認です。（平年7月20日）
- ・ 今後発生してくる雑草や病害虫は、基本的には移植栽培と同様に実施します。
→ただし、直は栽培は移植栽培と比較して 7～10 日程度生育が遅くなるため、斑点米カメムシ類等の防除時期も生育にあわせるように注意しましょう。

○東北地方の1か月予報（7月8日～8月7日までの天候見通し）によると、予想される向こう1か月の天候は次のとおりです。

期間中の気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並の見込みです。

（仙台管区气象台 令和5年7月6日発表）

（https://www.jma.go.jp/bosai/season/#area_type=offices&area_code=040000&term=1month）

○7月以降も引き続き高温が予想されています。

・ 熱中症にならないよう、作業前・作業中に定期的に塩分・水分を補給するとともに、休憩をとりましょう。

■ 熱中症対策の詳細は下記も参考にしてください。

厚生労働省

「熱中症を防ぐために知っておきたいこと熱中症予防のための情報・資料サイト」

URL

（https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/nettyuu/nettyuu_taisaku/index.html）

6月1日～8月31日は「令和5年度宮城県農薬危害防止運動」の実施期間です。

農薬を使用する前には、必ず使用可能な作物名・対象病害虫や雑草、収穫前日数等の登録情報をラベルやウェブサイト等で確認し、使用時期、使用方法、使用量を守って使用しましょう。

最新の農薬登録情報は、農林水産省のウェブサイト（下記）※で確認できます。

URL（<https://pesticide.maff.go.jp/>）